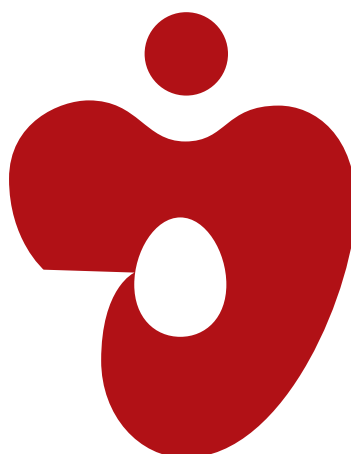


九州看護福祉大学紀要

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare

Vol. 17 No. 1

平成28年度



九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

目 次

1. 原著論文

道徳科の指導と資料活用に関する一考察

川野 司 3

ド・ケルバン病とスマートフォンの使用時間の関係および

ド・ケルバン病モデルに対して円皮鍼を用いた経筋治療の鎮痛効果

内田 匠治、篠原昭二 15

2. 研究報告

遺族補償年金の支給要件にみられる男女差についての一考察

—大阪地裁判決（平25年11月25日）と大阪高裁判決（平27年6月19日）を素材にして—

河谷 はるみ 29

万葉集にみる「防人」に関する考察

高 継芬 35

3. その他

アクティブラーニングとして討論を取り入れた授業の有効性

川野 司 47

ケースメソッド事例集における「佐々木校長、お願いしますよ」の

ケース分析と校長の専門職基準に関する論考

川野 司 61

九州看護福祉大学大学院・看護福祉学研究科 修士論文一覧 71

『九州看護福祉大学紀要』投稿内規および執筆要領 72

編集後記 74

編集後記

九州看護福祉大学紀要第17巻をお届け致します。6編の投稿を頂き（原著論文2編、研究報告2編、その他2編）、ここに発刊の運びとなりましたこと、紀要編集委員会としても大きな喜びです。

一連の編集作業の中、特に12名の査読者の方々には多くの時間と労を割いて頂きました。賜りましたご尽力が投稿者本人に対しては勿論のこと、大学全体の研究推進へとつながっていくものと信じております。ここに心より御礼申し上げる次第です。

さて、本格化した少子化の波と周辺での医療系学科の増設という新たな波も加わった新年を迎え、厳しい環境の下で我々は入学試験を始め2017年度の準備を粛々と行っているところです。教育カリキュラムの変革とそれに伴う教育内容のさらなる充実化、卓越した医療人の育成、地域への医療分野を中心とした貢献など求められることが多い昨今ですが、要は我々教員の資質向上が求められているわけです。学問的裏付けに基づいた思考を形成し、その結果としての言動をどう表現するかを決定する要因の一つに、論文作成に繋がる多くの作業があると思います。問題・疑問点抽出に始まり、実験、データ解析、執筆、投稿、査読に基づいた修正、校正など一連の流れの中で、この紀要も大学活動に対して少なからず寄与しているのではとの思いです。

平成29年2月2日

平成28年度紀要編集委員会

委員長	肥後 成美（リハビリテーション学科）
委員	緒方 妙子（看護学科）
委員	上妻 尚子（看護学科）
委員	李 玄玉（社会福祉学科）
委員	山本 孝司（社会福祉学科）
委員	岡田 裕隆（リハビリテーション学科）
委員	内田 匠治（鍼灸スポーツ学科）
委員	藤原 愛子（口腔保健学科）
委員	水崎 幸一（基礎・教養教育研究センター）

九州看護福祉大学紀要 第17巻 第1号

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare Vol.17 No.1

2017年3月

発行者 九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

〒865-0062

熊本県玉名市富尾888番地

888 Tominoo, Tamana-shi,

Kumamoto 865-0062, Japan.

TEL 0968(75)1800

FAX 0968(75)1811

紀要編集委員代表 肥後 成美

印刷所 株式会社 ベスト

〒861-5403

熊本県玉名市天水町部田見1895

TEL 0968(71)5911

FAX 0968(71)5512
